

『風の島へようこそ』

—くりかえし つかえる エネルギー—

アラン・ドラモンド作 / まつむらゆりこ訳 福音館書店



デンマークの小さな島、サムス島。風が強い島ですが、そのほかはごく普通のこの島が、最近注目を浴びています。この島では、自分たちが使うエネルギーを、自分たちで作っているのです。もちろん、少し前までは他の土地と同じく石油燃料を使い、電気はデンマーク本土から海底ケーブルで届けられていました。

ハーマンセンさんは、子どもたちに問いかけました。「この島でエネルギーを作るとしたら、どうすればいいかな?」「風が強いんだから、風車がいいよ!」子どもたちはどんどん意見を出してくれました。でも、大人たちはそうはいきませんでした。いろんな場所で、さまざまな人と、エネルギーについて話し合っていたハーマンセンさん。大人たちもだんだん耳を傾け始めますが、それでもなかなか生活を変えようとはしませんでした。

サムス島では今、島の人を使う電力と暖房用の熱のすべてを自分たちの島で作る自然エネルギーでまかっています。それどころか、余った電力を本土に売ってもいるのです。

そんな夢みたいなことができたのは、ここが小さな島だったからでしょうか?それとも人々が環境に関心をもっていたからでしょうか? いえいえ、彼らは普通の人でした。ではどうして夢がかなえられたのか、その秘密は本を読んでみてください。きっとあなたも、一步を踏み出したくなるでしょう。

震災1周年を前にした3月10日に、会議のために来日したハーマンセンさんのお話を伺うことができました。「大きな集会で人々に呼びかけたのではなく、どんな小さな集会にも出かけて行って、みんなと話したんだ」「コミュニケーションが一番大事だね」ハーマンセンおじさんは、笑顔でそう話してくれました。そう、夢は、かなうのです!

それを阻むのは、「無理だ…」と思う心なのかもしれません。

その翌々日の12日、コペンハーゲンの日本大使館では、国王夫妻も参加されて震災犠牲者の追悼式が行われたそうです。もちろん、ハーマンセンさんも出席しました。地球の向こう側の国でも、多くの人が心をつなげて震災犠牲者を悼み、東北の復興を祈ってくれているのです。私達は、一人ではないのだ、と思いました。

(小川)